

第2学年保健体育科学習指導案

日 時：令和4年11月10日 5時間目

対象学級：北上市立江釣子中学校2年AC組男子
(A組14名、C組15名)

指導者：北田善吾

1 単元(題材)名 武道(柔道)

2 単元(題材)の目標

- (1) 柔道の技には名称があることや、それぞれの技を身につけるための技術的なポイントがあることを理解し、相手の動きに応じて相手の体制を不安定にし、技をかけやすい状態を作ることができる。 【知識及び技能】
- (2) 学習した動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすることや、一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を認め、課題解決のために助言したりしようとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3 単元(題材)について

(1) 生徒について

本学級の生徒は、体を動かすことが好きで、体育の授業には積極的な姿勢で取り組む生徒が多い。ただし、ゲームを中心とした内容を好み、技能の習得や課題解決に向けた段階的な活動にはやや消極的な面も見られる。

これまでの学習を通して、ゲームをより楽しむためには基本的な技能の習得が必要であることを理解させるよう務めてきた。ペア学習を中心とした活動をできるだけ取り入れるようにし、できるようになることの喜びを感じてほしいと思い取り組んできた。

本単元では、技の習得だけでなく、互いに課題や出来映えを伝え合う中で技能が高まることの喜びを感じられるよう指導したい。

(2) 教材について

武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身につけ、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうこのできる運動である。また、武道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する対人的な技能を基にした運動である。

本単元では、投げ技における基本動作を理解し、身につけることで合理的に相手を投げるために、自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて、助言し合う場面を設定することで深い学びにつなげたいと考えている。

(3) 指導について

本単元では、相手の動きに応じた基本動作を身につけさせるために、崩しと体さばきの重要性を理解させ、グループごとの練習場面においてICTを活用し、客観的な視点から個々の課題に気づき、解決のためのアドバイスができるようにしたい。また、アドバイスし合う中で、学習した用語を用いて対話できるようホワイトボードへの既習内容の掲示や板書も工夫したい。

仲間の学習を互いに援助することは、最終的には自己の能力を高めたり、仲間と連帯感を高めて気持ちよく活動したりすることにつながることを理解させ、主体的に学ぶ力を身につけさせたい。

4 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知① 柔道の技には名称があり、それぞれの技を身につけるための技術的なポイントがあることを理解している。 知② 技の習得を通して、人間形成を図るという伝統的な考え方があることを理解している。 技① 相手の動きに応じて相手の体制を不安定にし、技をかけやすい状態を作ることができる。 技② 相手の技に応じた受け身をとることができる。	① 安全上の留意点を学習場面に当てはめようとしている。 ② 学習した言葉を用いて、仲間の課題や出来映えをつたえるようとしている。	① 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ② 仲間の学習を積極的に援助しようとしている。 ③ 禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。

5 単元の指導と評価の計画（10時間）

単元全体の課題「技のポイントに留意し、動きながら相手を投げることができるようになる」

時	・主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> 柔道の特性と成り立ちを知る。 柔道着の着方と礼法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の学習内容を復習しながら進める。 	「知識②」 挙手・発言 振り返りシート
2	<ul style="list-style-type: none"> 受け身の種類と行い方を学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容を想起させながら、安全に行わせる。 	「技能②」 観察
3	<ul style="list-style-type: none"> 二人組での受け身練習 	<ul style="list-style-type: none"> 安全に行うためのポイントを指導する。 	「主体的に取り組む態度①」 観察 「知識①」
4	<ul style="list-style-type: none"> 受け身練習 固め技の復習 	<ul style="list-style-type: none"> 禁じ手やお互いに気をつけなければならないときに触れ、安全に行わせる。 	「技能②」 観察 「思考・判断・表現①」 観察
5	<ul style="list-style-type: none"> 寝技の試合の仕方を知る。 寝技勝負 	<ul style="list-style-type: none"> 体格を考慮したグループを形成し、その中で取り組ませる。 	「知識①」 「主体的に取り組む態度③」 観察
6	<ul style="list-style-type: none"> 固め技の復習 組み方と投げ技の基本を知る 膝車の学習 	<ul style="list-style-type: none"> 基本動作は安全に投げるためにも大切なことであることを理解させる。 	「技能①」 観察 「思考・判断・表現①」 観察
7	<ul style="list-style-type: none"> 大腰の学習 体落としの学習 	<ul style="list-style-type: none"> 技によって変わる、崩し、体さばきについて十分指導する。 	「主体的に取り組む態度①②」 観察 「技能①」
8 本時	<ul style="list-style-type: none"> 自分の選択した技を練習する 技のポイントに着目し、アドバイスしあいながら練習する 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したポイントなど想起しやすいよう、掲示や板書を工夫する。 	「思考・判断・表現②」 観察・記述 「知識①」
9	<ul style="list-style-type: none"> 自分の選択した技を練習する 技のポイントに留意し、動きながらタイミングよく投げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 改めて留意すべき安全事項、技のポイントを確認し、約束した動きの中で投げられるよう、練習に取り組ませる。 	「主体的に取り組む態度②」 観察 「思考・判断・表現②」 観察・記述
10	<ul style="list-style-type: none"> 演舞会 練習した技を披露する 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの技の出来映えを認め、明るい雰囲気の中で行わせる。 	総括的な評価

6 本時の指導（8時間目/全10時間）

（1）目標

○技のポイントに留意し、アドバイスしあいながら練習することができる。【思考・判断・表現②】

（2）評価基準

おおむね達成	未達成の生徒への支援・手立て
・これまで学習した、崩しや体さばきに着目し、技のポイントを言葉で説明しながらアドバイスしようとしている。	・ホワイトボードに掲示してある既習事項を確認させ、アドバイスすべきポイントを絞って見るよう指導する。

（3）指導構想（本校の研究主題とのかかわり）

本時は、崩しと体さばきの重要性を理解させ、グループごとの練習場面においてICTを活用し、客観的な視点から個々の課題に気づき、解決のためのアドバイスができるようにすることで、相手を合理的に投げることができるようになることを目標としているものである。

本校の研究主題は学びつづける力を育てる授業実践のために、学び方を「学びの型（学びのプロセスを授業に当てはめて具体的にしたもの）」として定義し、「主体的・対話的で深い学び」に留意しながら授業改善を行い、質の高い学び、生涯にわたって主体的に学びつづけられる生徒の育成をめざして校内研究を推進している。「学びのプロセス」を重視した授業で、生徒の力を育てたり高めたりすることをねらいとし、研究内容が各教科・領域等の教育計画や授業に生かされるように取り組んでいる。

その「学びのプロセス」は、以下のとおりである。

《学びのプロセス》

- ① 目的意識をもちながら課題に立ち向かう
- ② 解決までの道のりを見通し、解決方法を予想し、解決方法を学んだり選択したりする
- ③ 予想やモデル（やり方）を参考にして熟考したり、思考錯誤したりする
- ④ 他とのかかわりを通して課題解決する
- ⑤ 学習をふり返り、新たな課題に向かう

本時は、①の目的意識をしっかり持たせるために、自己選択による技の習得を目指すこととしている。上記プロセスのうち、特に③④について、既習内容を基に互いに課題を発見し、解決のためにどんなアドバイスができるか考えさせたい。また、対話しながら練習に取り組む中で、仲間の学習を援助することが自己の学習の深まりにつながることに気づかせ、学び続けようとする姿勢の育成につなげたいと考えている。

(4) 展開

段階	生徒の思考・学習過程 プロセス＝〔学びのプロセス〕★	学 習 活 動	
		生徒の活動（○主な発問等）	□指導上の留意点 ◆評価
導入 10分	1 あいさつ	1 礼法を意識し、座礼で挨拶を行う。	□けが等の生徒への配慮
	2 準備運動	2 教科リーダーの指示で準備運動を行う	□高まる体力を意識し、補強運動にも取り組ませる
	本時の学習課題 「技のポイントに留意し、アドバイスしあいながら練習しよう」		
展開 30分	3 課題把握 プロセス①② ★何をすればよいのか ★どのようにすればよいのか	3 モデル動画を見て、技のポイントと練習の進め方を理解する。 ○「アドバイスの際、着目すべきポイントは何か」 ・崩し方 ・足の使い方（体さばき） ・手の使い方（釣り手・引き手）	□前時までの学習内容の掲示、板書の工夫をする
	4 関わり合い プロセス③④ ★わかりたい ★伝えたい ★学びたい ★深めたい	4 グループごとに選択した技のポイントに留意しながら、アドバイスし合って練習する。 ・ペアで受け身練習 袖引っ張り左5回・背中落ち左5回 ・2ペア（4人グループ）で投げ技練習を行う。 ① 崩しの練習・体さばきの練習 ② 崩し～体さばき ③ 打ち込み ペアの能力に応じて段階的に練習 「引き手の位置をもっと高く」 「崩しのタイミングが遅いよ」 「体さばきのスピードをもう少し早く」	□投げられることをイメージして受け身練習を真剣に行うよう指導する。 □必要に応じて動画を活用し、課題点を確認するよう指導する。 □話し合いの時間より、実際に動きながら課題解決に取り組む時間が多くなるよう声かけする。
	5 個々の追求 ★より上手に投げたい	5 アドバイスを基に打ち込み練習	□留意すべき安全事項を守っているかよく観察する
終末 10分	7 振り返り プロセス⑤ ★考えが深まった ★課題を解決できた ★いいアドバイスができた ★認められた	7 振り返りシートに入力する	【振り返りシート】 ◆思考・判断・表現②
	本時の振り返り ・崩しの時の引き手の位置を高くするといいことがわかった。 ・体さばきの時に相手の前からいなくなるようにすればいいというアドバイスがわかりやすかった。 ・体さばきの足を置く位置が悪いところを見つけてアドバイスできた。		
	9 あいさつ	9 礼法を意識し、座礼であいさつを行う。	□けが等の生徒への配慮